

ウイルス性出血熱としての重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に関する最近の話題

西條 政幸 先生

(国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長)

日時：2019年 8月 7日 (水) 15:00 - 16:30

場所：日本生物科学研究所 管理棟 会議室 2・3

【要旨】

2012年秋に山口県在住の海外渡航歴のない女性が発熱、全身倦怠感、下痢等の症状で発症し、発症後1週間で死亡した。後方視的な検査により、2013年1月にその患者が、2011年に中国の研究者らにより発表されていて新規ウイルス感染症である重症熱性血小板減少症候群 (severe fever with thrombocytopenia syndrome, SFTS) に罹患していたことが明らかにされた。SFTSは、ブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類されるSFTSウイルスによる感染症であり、多くの場合、ヒトはウイルスを有するマダニに咬まれて感染する。日本では毎年60-100人の患者が報告され、その約30%の患者が死亡している。現在、効果的な治療法と予防法の開発研究が進められている。特に抗ウイルス薬であるファビピラビルによる治療効果を調べる研究が進められている。

またSFTS患者の多くはウイルスを有するマダニに咬まれてSFTSウイルスに感染しSFTSを発症していると考えられてきたが、近年、SFTSウイルスに感染してSFTS様症状を呈するネコやイヌからヒトがSFTSウイルスに感染し、SFTSに罹患している患者がいることが明らかにされた。SFTS流行地の獣医師・獣看護師等の感染リスクは比較的高いと考えられる。

本講演では、日本におけるSFTSの流行状況、SFTSウイルスの自然界における存在様式、ヒトへの感染経路、治療・予防法に関する研究成果を紹介したい。



主催

一般財団法人 日本生物科学研究所

NIBS

<http://nibs.lin.gr.jp/>